



NPO
花粉症・鼻副鼻腔炎治療推進会

Therapeutic Promotion Society for Pollinosis and Rhinosinusitis

VOL.6

www.hanamizu.jp

卷頭のご挨拶

「パンフレット(第6号)」の刊行に寄せて

2017年の夏が暑かったため、2018年のスギ・ヒノキ花粉飛散が多いことが予想されましたが、逆に少ない予想も出ていました。実際にはスギは平年並みか少し多かったのですが、ヒノキが関東では多く飛んで症状の悪化、有症期間の延長など大変だったようです。このように記載しても花粉症の患者の皆様はどのように感じるのでしょうか。昨年の何倍では非常に多く感じ、平年の何倍という表示ではその程度か、などと感じるのでしょうか。平年の値が地域ごとに異なっているので、一概に多い、少ないというのは非常に難しいと私は思っております。近年の気象変動も大きく、過去のデータがうまく使用できないことで、おおよその飛散予想は可能ですが、細かいところまでは当てにくい現状があります。さて2019年は2018年夏がやはり暑かったため、多くのスギ・ヒノキ花粉飛散が予想されています。我々のNPO法人では花粉症や鼻副鼻腔炎でお困りの方に何らかのアドバイスが出来ればと考えて、活動しております。

さて今回、我々のNPOでは「花粉症・鼻副鼻腔炎(難治性ちくのう症)治療の最前線をわかりやすく解説」と題して、花粉症では花粉飛散の特徴や日常生活にあっての注意点、新しい治療法、副鼻腔炎ではなかなか良くならない時にどうするか、新たな副鼻腔炎の治療などにターゲットを当てて、市民講演会を企画させて頂きました。いくら花粉飛散が少なくとも毎年同じ症状が出る皆様はおられますし、眠気、仕事がはかどらないなどの問題点があります。まずは日常生活でのスギ花粉を吸わない事、出会わなくさせる方法などから、スギ花粉を回避する事、規則正しい生活、食事などを心がけて症状が悪化しないようにさせる方法などをお話したいと考えます。また一般的な治療法はもちろんですが、折しもスギ花粉症に対する新しい治療法である舌下免疫療法が2014年スギ花粉飛散季節以降に一般的に使用されることが期待されています。舌下免疫療法は注射ではなく、個人個人で使用方法が同じで、危険な副作用もほとんどないという画期的な治療法です。皆様が理解して先生方と上手に治療を進めていって頂けるように説明させて頂きます。副鼻腔炎も花粉症と同じ鼻の病気ですが、ポリープが出来たり、嗅覚障害が出現したりして、一度悪化するとなかなか治らず、ずっと耳鼻咽喉科に通院しなければならなくなります。頻回に通院するように、あるいは薬剤を毎日飲むように言われたり、大きな病院での手術を勧められたりと大変ですが、どうして大変になるのか、どうして悪化してしまったのか説明します。また近年開発された新しい治療法についても皆様に知って頂きたく講演します。

花粉症は季節の病気ではありません。毎年毎年やってくる慢性の病気であり、その原因がはっきりしています。このため、正しい知識を持って、花粉症シーズンに向かう事によって、このシーズンを上手く乗り切って頂けるようNPOとしてお手伝いが出来ればと思っています。また副鼻腔炎に対しても正しい知識をもって頂き、いくつかある治療法の中から自分にあった治療法を選択できるようにNPOの講演会から学んで頂ければ幸いです。是非、ご参加をお待ちします。



平成31年 1月10日

ホームページ <http://hanamizu.jp>

特定非営利活動法人
花粉症・鼻副鼻腔炎治療推進会
理事長 大久保公裕



アレルギー週間「第6回 花粉症市民講座」

花粉症・鼻副鼻腔炎(難治性ちくのう症)治療の最前線 ～こうして、新しい治療は誕生する～

[主催]特定非営利活動法人(NPO)花粉症・鼻副鼻腔炎治療推進会

[共催]公益財団法人 日本アレルギー協会関東支部

花粉症の季節が近づいてきました。症状がひどくなると日常生活にも影響を与えかねません。

正しい知識をもって対処するために、今年の花粉予測や食事による予防策など、

役立つ情報を専門家を交えて紹介します。たくさんの方のご参加をお待ちしております。

日 時 平成31年2月17日(日) 13:00~14:30(12:30受付開始)

場 所 都市センターホテル

東京都千代田区平河町2-4-1

TEL:03-3265-8211

アクセス

- 東京メトロ 有楽町線・半蔵門線・南北線
「永田町駅」4番・5番出口より徒歩4分、
9番出口より徒歩3分

※「永田町駅」からのアクセスは、5番出口方面の先にある
9番出口が便利です。ホテル前のプリンス通りに出られます。

- 東京メトロ 有楽町線「麹町駅」
半蔵門方面1番出口より徒歩4分

- 東京メトロ 丸の内線・銀座線、「赤坂見附駅」D出口より徒歩8分

- JR中央線「四谷駅」麹町出口より徒歩14分



参 加 費

無料(ただし事前の登録(申し込み)が必要です。)

定 員

先着100名様

プロ グラム

12:30 受付開始

13:00 開 講 開講のご挨拶：大久保公裕(日本医科大学大学院 頭頸部・感覚器学 教授)
司 会：宮本昭正(公益財団法人 日本アレルギー協会 顧問)

13:10 講 演1 講演内容：難病指定、難治性鼻副鼻腔炎(ちくのう症)の症状と治療
講 師：松根彰志(日本医科大学 耳鼻咽喉科学 教授)

13:40 質問コーナー(申し込み時にお寄せいただいたものを優先してお答えします。)

13:50 講 演2 講演内容：新しい花粉症治療の誕生と「花粉暴露室」
講 師：橋口一弘(新宿区左門町 ふたばクリニック 院長)

14:20 質問コーナー(申し込み時にお寄せいただいたものを優先してお答えします。)

14:30 終了

お申しだみ方法

- ホームページでお申しだみください

<http://hanamizu.jp/> にアクセスいただき、専用フォームにご入力ください。
整理番号等を書いた受講証を返信先メールアドレスにお送りします。

締 切

2月8日(金) ※電話・FAXでのお申しだみ等は受け付けていません。

※アンケートをご記入いただき受付デスクへのご提出にご協力ください。筆記用具をご持参ください。



【司会】宮本 昭正

公益財団法人日本アレルギー協会及び新橋アレルギー・リウマチクリニック顧問などで現在も活躍中。東京大学付属病院 病院長、国立相模原病院 病院長を歴任、国際アレルギー・臨床免疫学会の会長、日本アレルギー学会の会長、顧問なども歴任した。喘息、内科、アレルギー、呼吸疾患、リウマチ・膠原病が専門分野で多方面で活躍している。

講演内容(抄録)

講演1：難病指定、難治性鼻副鼻腔炎(ちくのう症)の症状と治療

講師：日本医科大学医学部 耳鼻咽喉科学 教授・日本医科大学武藏小杉病院 耳鼻咽喉科 部長 松根彰志

鼻づまりや鼻水、頭の重い感じといった症状の原因になる鼻の病気というと鼻炎と蓄膿症ということになるだろうと思います。これらは、けつして「風邪」ではありません。鼻炎では、スギ・ヒノキ花粉症、ホコリやダニなどによるアレルギー性鼻炎が、お馴染みです。一方、蓄膿症は医学的な正式名称としては副鼻腔炎と呼ばれています。ドロドロした痰や鼻水、頭重や頭痛、鼻茸による鼻づまりに日々、一日中悩まされることになります。イライラや集中力の低下にもつながりますし、鼻での息がうまくできず口呼吸になり、睡眠障害の原因になります。さらに、ニオイをかぐ力が弱くなってきて味までよくわからなくなったりします。

今回は、鼻炎と並んで重大な鼻水の原因である副鼻腔炎のわかりやすいお話を加えて、最近問題になっている難治性の副鼻腔炎のお話をしたいと思います。従来の副鼻腔炎とちがって喘息を合併しやすく、手術をしていったんきれいにしても非常に再発しやすい特徴があります。国もこの病気については、好酸球性副鼻腔炎という名前を使って、普通の副鼻腔炎とは区別して、「難病指定」としています。どのような病気なのかもう少し詳しく解説して、今どのような治療がなされているのかについて、最新の情報を元にお話したいと思います。ご自身がこうした病気をお持ちの方のみならず、ご家族や職場でこうした病気をお持ちの方など、多数お誘いあわせの上お申込みいただければ幸いです。ご質問もお寄せください。会場でお会いしましょう。



松根彰志 / NPO 花粉症・鼻副鼻腔炎治療推進会 事務局長

1984年 鹿児島大学医学部医学科 卒業、1988年 鹿児島大学大学院 修了

1988年～1990年 米国ピッツバーグ大学医学部 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 留学

2000年 鹿児島大学医学部 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 助教授

日本医科大学医学部 耳鼻咽喉科学 教授

日本医科大学武藏小杉病院 耳鼻咽喉科部長

日本耳鼻咽喉科学会、日本アレルギー学会、日本気管食道科学会 各専門医

日本アレルギー学会、日本鼻科学会、耳鼻咽喉科感染症・エアロゾル学会、各代議員

講演2. 新しい花粉症治療の誕生とその実際

講師：NPO花粉症・鼻副鼻腔炎治療推進会 事務局長（兼 副理事長） 橋口一弘

新しい薬がどのように作られてくるかご存知でしょうか。ある特定の病気に効果があると思われる新しい候補物質が見つかると、その物質の安全性や効果をまず動物で確かめた後、人への有効性や安全性を充分納得がいくまで試験を行います。その試験（臨床試験）を治験といいますが、通常3つの段階があり、いずれの段階でも有効性だけでなく安全性も確認していきます。この段階を経て新薬が世の中に出てくるわけですが、一般的に4～7年かかるといわれています。

さて、最近の東京都のスギ花粉症についての調査では、スギ花粉症にかかっている人の割合は48%と、ほぼ2人に1人がスギ花粉症であることが示されました。花粉症で薬剤を服用された方は多いと思いますが、花粉症治療薬も先ほどの臨床試験を行って有効性・安全性を確認してから世の中に出てきます。新しい薬剤が花粉症治療に本当に効果があるかどうかを確かめる場合、実際スギ花粉が飛んでいる時期（2月から3月）に試験を行う必要があります。ところがスギ花粉の飛ぶ数は毎年同じではなく、少ない

年もあれば多い年もあります。また天気のいい時にはたくさん飛びますが、雨が降ると花粉の飛散数が急に減ったりします。2月や3月には季節外れの雪が降ったりすることもあります。こういった自然による不確定な要素があるためスギ花粉の数が予測できないことがあります。花粉の数が少なくて花粉症患者さんに症状がなかったりすると試験ができなくなり、翌年に持ち越してしまうといったことがあります。そのた実際に使えるまでにさらに時間がかかってしまうことがあります。そういった欠点を補うという目的で、新しいお薬の花粉症に対する効果を確実に確かめる方法が開発されました。それが花粉曝露室といわれる施設です。スギ花粉を人工的に一定の濃度で飛ばすことができるよう設定された部屋で、1年中同じ条件下でお薬の効果を確かめることができます。現在日本にはこのような施設が和歌山、東京、千葉に3施設あります。東京にある施設はわたくしも関わっており、開発にかかわった先生方の頭文字をとってOHIO Chamberと名付けました。今日のお話では、新しい薬剤がどのように世の中にできてくるのかということと、スギ花粉症の治療薬開発にかかわるスギ花粉曝露施設についてお話ししたいと思います。



橋口一弘 / NPO 花粉情報協会理事、NPO 花粉症・鼻副鼻腔炎治療推進会理事

1982年3月 慶應義塾大学医学部卒業

1982年4月 慶應義塾大学病院耳鼻咽喉科入局

1983年7月 済生会神奈川県病院耳鼻咽喉科勤務

1986年7月 慶應義塾大学病院耳鼻咽喉科助手

1989年7月 産業医科大学耳鼻咽喉科講師

1990年7月 北里研究所病院耳鼻咽喉科勤務

2000年4月 北里研究所病院耳鼻咽喉科部長

2009年4月 北里大学北里研究所病院臨床教授

2011年3月 ふたばクリニック院長

日本耳鼻咽喉科学会 専門医

日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会 評議員

日本口腔咽頭学会 評議員

日本鼻科学会

日本アレルギー学会 など

NPO活動

1) NPO定期役員会・総会を開催

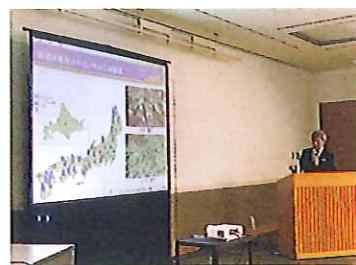
日 時	平成30年8月18日(土) 18時30分~19時
場 所	ステーションコンファレンス万世橋
内 容	第5期(平成29年7月1日~平成30年6月30日)決算・事業報告了承 第6期(平成30年7月1日~平成31年6月30日)決算・事業計画承認 新理事 就任 後藤 穂氏 (日本医科大学 耳鼻咽喉科学 准教授) 増田弘行 氏 (コンサルティング会社 代表取締役社長) 松延 賢 氏 (日本医科大学 耳鼻咽喉科学 准教授)

2) 第5回花粉症市民講座を開催

日 時	平成30年2月25日(日)	場 所	東京都千代田区平河町 都市センターホテル
テーマ	花粉症の治療、 ここに注目、ここが重要	主 催	特定非営利活動法人(NPO) 花粉症・鼻副鼻腔炎治療推進会
共 催	公益財団法人 日本アレルギー協会 関東支部	司 会	宮本昭正 (公益財団法人 日本アレルギー協会 理事長)



演題
「子供や高齢者の鼻水とその対策」
講師
松根彰志(日本医科大学 耳鼻咽喉
科学 教授)



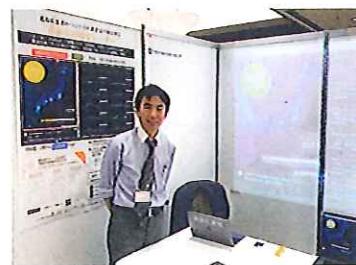
演題
「舌下免疫療法は、花粉症、アレル
ギー性鼻炎に有効です!!」
講師
大久保公裕(日本医科大学大学院
頭頸部・感覚器学 教授)

3) 第4回みんなのアレルギーEXPO 2018に展示参加

日 時	2018年10月15日(月)~16日(火)	場 所	東京都新宿区 京王プラザホテル
-----	-----------------------	-----	-----------------



NPO 花粉症・鼻副鼻腔炎治療推
進会 展示エリア 花粉症・アレル
ギー性鼻炎に対する「舌下免疫療
法」の解説や紹介をさせていただ
きました。
(事務局長 松根彰志)



SNS Twitter「つぶやき」のキー
ワードを取り込んだ人工知能を活
用した将来の花粉症対策を考
えるをテーマとした展示をいたし
ました。当NPOもデータ収集に協力
させていただいております。(奈良
先端科学技術大学院 准教授
荒牧英治先生)

4) 第7回神奈川気道炎症病態研究会を支援

日 時	平成30年10月19日(金) 共催 杏林製薬(株)
場 所	横浜市 崎陽軒
講演内容	座長 幸山 正 (帝京大学医学部附属溝口病院 第4内科 教授) 演題 One airway, one disease的アプローチによる喘息治療 講師 NTT東日本関東病院 呼吸器センター センター長 放生雅章 先生
座長	松根彰志 (日本医科大学武藏小杉病院 耳鼻咽喉科 教授) 演題 One Airwayとバイオマーカーの観点から見た慢性気道炎症について 講師 広島大学大学院医歯薬保健学研究科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 教授 竹野幸夫 先生

◆ アレルギー性鼻炎/花粉症 研究の進歩のために

当NPOの顧問、理事をお勤めいただいた故奥田 稔氏のご遺志により、現在臨床研究や臨床試験で広く使われております日本アレルギー性鼻炎標準QOL調査票(JRQLQ)は、今後当NPOで引き継いで管理していくこととなりました。アレルギー性鼻炎研究の発展とその成果の社会への還元を第一に考え、企業や医療機関、研究機関等でご使用いただくための手順や注意点等ができるだけ早急に具体的にとりまとめ、ホームページ等でお知らせしていきたいと思います。

お問い合わせ

NPO 花粉症・鼻副鼻腔炎治療推進会 本部

(日本医科大学附属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科内、大久保公裕)

◆ 計報

当NPOの顧問・理事 奥田 稔氏が、2018年(平成30年)11月23日に逝去(享年92歳)されました。奥田氏は、生前の当NPOの創立、活動の推進に多大なる貢献をされました。心より感謝申し上げますとともにご冥福をお祈り申し上げます。

「花粉対策の日」、「アレルギー週間」、「鼻の日」のご紹介

◆ 1月23日 「花粉対策の日」 JAPOC

当NPOが医療サイドからのアドバイザー参加をしております花粉問題対策事業者協議会(JAPOC: Japan Anti-pollinosis Council)が提唱し、一般社団法人「日本記念日協会」が認定した記念日です。その趣旨は、「花粉症にはワン・ツー・スリーの対策を！」ということで、以下の3項目がその内容です。詳しくは、URLをご覧ください。
(<http://www.kafunbusiness.org/step>)

ワン: 花粉対策は、花粉飛散日にかぎらず早め早めの対策が必要です！

ツー: 花粉対策は、スギ花粉飛散が多くなる1月、2月、3月の時期に適切におこないましょう！

スリー: 花粉対策は、いろいろな手段を総合的に組み合わせておこないましょう！

◆ 2月17日～2月23日 「アレルギー週間」 日本アレルギー協会

公益財団法人 日本アレルギー協会により1995年(平成7年)以来、毎年2月17日～2月23日を「アレルギー週間」とすることが定められた。石坂公成先生がIgE抗体を発見し、米国のアレルギー学会で発表された2月20日を「アレルギーの日」と制定し、その前後1週間(毎年2月17日～23日)を「アレルギー週間」として様々な活動を行っています。東京でのアレルギー週間中央講演会をはじめ、全国の支部で一般の方を対象に様々な催しを行っています。

◆ 8月7日 「鼻の日」 日本耳鼻咽喉科学会

一般社団法人 日本耳鼻咽喉科学会では、1961年(昭和36年)以来、毎年8月7日を「鼻の日」と制定して鼻疾患に対する啓発を行っています。制定当時は副鼻腔炎(蓄膿症)の患者さんが多く、社会生活や学業に大きな影響を与えていたので、この疾患の早期発見、早期治療を勧めることを目標にしていました。副鼻腔炎は、軽症化の傾向にあります。一方、スギ花粉症などのアレルギー性鼻炎は、近年さらに頻度が上昇しており、国民病とまでいわれるようになってきました。また、においの障害は生活の質(QOL)と関連して大きな問題ですが、まだまだ社会的認知が十分でない状況です。

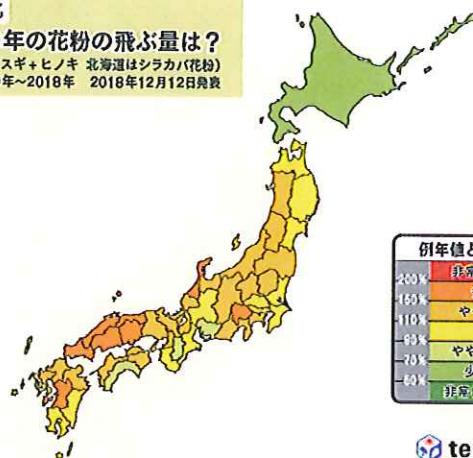
スギ花粉症 ひとくちメモ

スギの花粉で発症するスギ花粉症。日本で一番症例が多いのがスギ花粉症です。アレルギー性鼻炎などの合併症も考えられますので早めの受診をお勧めします。

◆ スギ花粉症予報(2019年予報)

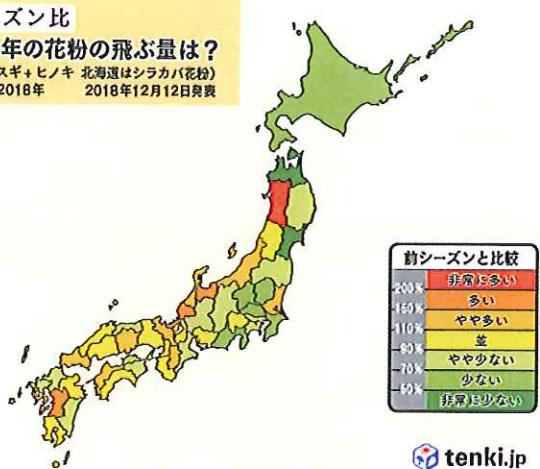
スギ花粉の飛散開始は、関東から近畿、中国、四国地方、九州で、例年より5日ほど遅くなるでしょう。2月中旬に九州や四国、東海、関東地方の一部から花粉シーズンがスタートする見込みです。2019年の1月から2月は、気温が北日本ではほぼ平年並み、東日本は平年並みか高く、西日本は平年より高くなる予想です。冬に気温が高めで経過する見込みのため、スギの雄花の休眠打破が遅れ2019年春のスギ花粉の飛散開始は、東日本と西日本で例年より遅くなるでしょう。スギ花粉は、飛散開始と認められる前から、わずかな量が飛び始めます。2月中旬に飛散開始が予測される地域では、1月のうちから花粉対策を始めるといいでしょう。(日本気象協会 tenki.jp.より引用)

例年比
2019年の花粉の飛ぶ量は?
(スギ+ヒノキ 北海道はシラカバ花粉)
例年:2009年~2018年 2018年12月12日発表



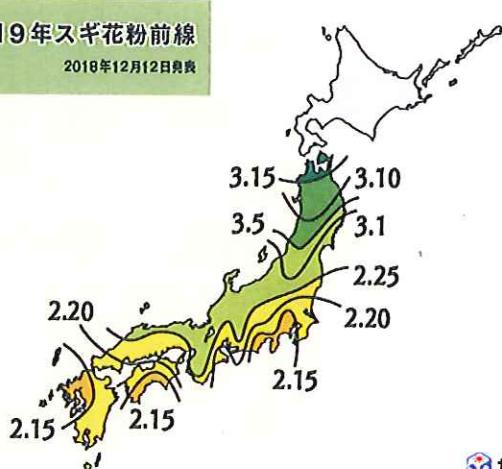
tenki.jp

前シーズン比
2019年の花粉の飛ぶ量は?
(スギ+ヒノキ 北海道はシラカバ花粉)
前シーズン:2018年 2018年12月12日発表



tenki.jp

2019年スギ花粉前線
2018年12月12日発表



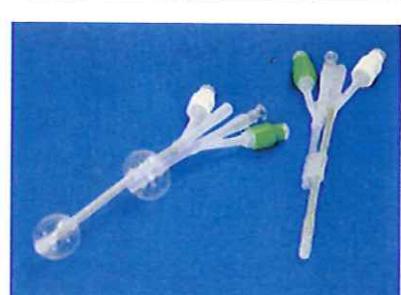
tenki.jp

◆ 難治性副鼻腔炎治療と関連情報

市民講座抄録でもご紹介した「難治性副鼻腔炎」(指定難病、好酸球性副鼻腔炎)の治療として、内視鏡下鼻内手術(全身麻酔、入院)+術後のカテーテル治療(月1~2回、外来)をパッケージで行っています。このパッケージ治療は、すべて「保険診療」として行われています。また、基準を満たしていれば、手術後の「指定難病申請」は可能です。以下の点のいくつかに該当する方、パッケージ治療に興味のある方は、NPO花粉症・鼻副鼻腔炎治療推進会・事務局(日本医科大学武蔵小杉病院、耳鼻咽喉科医局内、事務局長 松根彰志)にお問い合わせください。

1. 副鼻腔炎(蓄膿症)といわれている。
2. 喘息といわれている。
3. においがしないか、極めて弱い状態(嗅覚障害)が続いている。
4. ドロドロの痰や鼻水、鼻づまり、頭が重い症状が続いている。
5. 鼻の症状に加えて、頑固な耳づまりも出てきた。

以上の2~3つがあてはまると要注意です。



難治性副鼻腔炎・手術後の外来治療で使う副鼻腔炎治療用カテーテルです。(シリコン製、日本製)カテーテルを用いて、手術後の副鼻腔に薬液を注入して再発予防の加療をします。(すべて、通常のいわゆる「保険診療」として行われます。)

謝 辞

今回も多くの企業様、団体様に「特定非営利活動法人(NPO)花粉症・鼻副鼻腔治療推進会」の活動をご理解、ご賛同いただいております。お陰様で「花粉症市民講座」の開催、従来からのホームページの運営、2017年からのホームページのスマートホン対応などなど、紙面でご報告させていただいている活動を行うことができています。ここに心よりお礼を申し上げます。感謝の意を込めて、お名前を掲載させていただきます。(50音順)

今後とも尚一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

NPO 理事長 大久保公裕

社会医療法人 翔和仁誠会

社会医療法人 正志会

社会医療法人 石心会

アステラス製薬

杏林製薬

グラクソスミスクライン

サノフィ

SIEMENSヘルスケア

大鵬薬品工業

第一三共

田辺三菱製薬

東京鼻科学研究所

東京臨床薬理研究所

鳥居薬品

バイエル薬品

Meiji Seika ファルマ

モリタ製作所

平成30年12月末日現在

NPO 花粉症・鼻副鼻腔炎治療推進会
パンフレット第6号

編集責任者 松根彰志

U R L <http://hanamizu.jp/>

印 刷 2019年1月18日

印 刷 所 エヌ・ビー・エフ株式会社(東京都港区)

U R L <http://www.npfbro.s.co.jp>